

# 国立大学法人浜松医科大学

## 第6期事業年度（平成21年度）財務諸表の概要

### 1. 国立大学法人の財務諸表

国立大学法人は、国民その他の利害関係者に対し財政状態や運営状況に関する説明責任を果たし、自己の状況を客観的に把握する観点から財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分に関する書類、キャッシュ・フロー計算書、国立大学法人等業務実施コスト計算書）の作成及び公表が義務付けられております。

国立大学法人の財務諸表は、国立大学法人会計基準及び国立大学法人会計基準注解、並びに国立大学会計基準に関する実務指針に従って作成することとされています。

国立大学法人は、事業年度の終了後3月以内に財務諸表を文部科学大臣に提出し、承認を受けることとされています。また、財務諸表の提出にあたっては監事の監査のほか、会計監査人（公認会計士）の監査を受けることが義務付けられております。

### 2. 第6期事業年度（平成21年度）決算の概要

#### （1）貸借対照表

##### （資産の部）

資産の総額は43,886百万円です。（前年度比2,700百万円（6.5%）増）

主な内訳は土地、建物、機器等の固定資産が34,454百万円、現金・預金、たな卸資産等流動資産の合計が9,431百万円となっております。

#### 【資産の主な増減等】

①土地については昨年度と変動はなく、6,489百万円となっております。【面積：302,120㎡】

②建物では長期借入金、施設整備費補助金等を財源に病院再整備事業の附属病院病棟新営工事が竣工（11,864百万円）、目的積立金により患者駐車場（347百万円）、施設整備費補助金等による基礎臨床研究棟耐震改修事業Ⅱ期（649百万円）などにより前年度比12,714百万円（171.5%）増加し、20,126百万円、となっております。

また、病棟竣工に伴い、外来棟（5階以上）を使用しないと決定したことにより、減損会計処理（713百万円）を行っております。

【建物116棟（延面積40,146㎡）、延面積165,223㎡、建物附属設備 約2,500点】

③構築物では病院再整備事業により46百万円（17.9%）増加し、311百万円となっております。

【構築物とは用壁、橋、囲障（ガードレール等）などの建物に付随しない建造物と立木竹約1,000点】

④工具器具備品では病院再整備事業の設備整備として、目的積立金を財源に全自動輸血検査システム・保育器等の診療機器（305百万円）、長期借入金により手術支援システム・患者生体情報管理システム等（1,219百万円）、運営費交付金により洗浄滅菌システム・病棟配膳システム等（553百万円）を購入したことなどにより前年度比2,540百万円（71.6%）増加し、6,088百万円となっております。

【大学（教育研究用機器等）約980点、病院（診療用機器等）約930点】

⑤建設仮勘定では附属病院新営工事が竣工し、建物に振替えたことにより前年度比10,325百万円（97.3%）減少し、279百万円となっております。

⑥流動資産では現金及び預金が昨年度は病院再整備工事費等の支払い（4月中支払済）のための資金などにより増加していましたが、今年度は通常の未払となっていることに伴い、前年度比2,666百万円（28.5%）減少し6,666百万円となっております。

#### (負債の部)

負債の総額は 30,007 百万円です。(前年度比 817 百万円 (2.8%) 増)

主な内訳は国立大学法人特有の資産見返負債 3,282 百万円、国立大学財務・経営センターからの借入金 18,742 百万円、リース債務 1,449 百万円、未執行の寄附金である寄附金債務 1,202 百万円、受託研究の複数年契約分の前受受託研究費等 402 百万円などとなっております。

#### 【負債の主な増減等】

- ① 国立大学財務・経営センターから今年度新たに長期借入 2,588 百万円を借入しており 728 百万円を返済しております。  
(新規借入: 病棟新営工事 1,325 百万円、診療機器等設備 1,263 百万円)
- ② 運営費交付金債務は中期目標期間の最終年度精算により全額収益に振替えており 420 百万円減少しております。
- ③ 未払金が前年度病院再整備に伴う工事費支払額により増加していましたが、今年度は通常未払額となっていることから前年度比 1,859 百万円 (32.3%) 減少の 3,885 百万円となっております。

#### (純資産の部)

純資産の総額は 13,878 百万円です。(前年度比 1,883 百万円 (15.7%) 増)

主な内訳は資本金が 5,317 百万円、資本剰余金が 4,409 百万円、利益剰余金は積立金 3,354 百万円及び当期未処分利益が 797 百万円となっております。

#### 【資本金】

資本金は、出資対象財産の評価額から、国から承継した借入金を差し引いた差額として算定する仕組みとなっているため、全額について現物出資となります。5,317 百万円で前年度(法人化当初)から変動はありません。

#### 【資本剰余金】

資本剰余金は国から承継された病院収入分等に加え、施設整備費補助金、目的積立金により取得した資産相当額が計上されます。今年度、施設整備費補助金により取得した資産相当額が 2,242 百万円、目的積立金により取得した資産相当額が 1,365 百万円増加したことにより、前年度比 2,605 百万円 (144.4%) 増加し 4,409 百万円となっております。

#### 【利益剰余金】

- ① 目的積立金は病院再整備事業として診療用機器等の購入、患者駐車場の設置、教育研究用設備の購入のため、全額使用しております。
- ② 積立金は利益額のうち目的積立金として承認されなかった額で今までの累計 3,354 百万円となっております。
- ③ 当期未処分利益 797 百万円は当期総利益額であり、資金が伴う運営努力等による利益額が 15 百万円となっておりますが、中期目標期間繰越として承認が必要となります。

## (2) 損益計算書

### (経常費用)

経常費用の総額は 20,993 百万円です。(前年度比 1,751 百万円 (9.1%) 増)

業務費は支出の目的別に教育・研究・診療などに区分して表示しており、教育経費 324 百万円 (経常費用比 1.5%)、研究経費 1,046 百万円 (4.9%)、診療経費 8,587 百万円 (40.9%)、人件費 9,442 百万円 (45.0%) などで、そのほか一般管理費 393 百万円 (1.8%)、財務費用 (支払利息) 364 百万円 (1.7%) となっております。

#### 【経常費用の主な増減等】

- ① 教育経費、研究経費は教育研究支援のための補助金等の交付を受け事業を実施したことなどで、教育経費が前年度比 71 百万円 (28.2%) 増、研究経費が 82 百万円 (8.5%) 増となっております。
- ② 診療経費が新病棟移転に伴う移転費・医療機器等の整備、外来患者数等の増に伴う医療材料費の増等により、前年度比 1,244 百万円 (16.9%) 増となっております。
- ① 人件費が教育研究支援のための補助金等の事業実施のための特任教員等の増、診療業務の向上のため看護師等の増員等により前年度比 430 百万円 (4.7%) 増となっております。
- ② 受託研究経費が前年度比 140 百万円 (18.4%) 減となっているが、これは複数年度契約に係る資産の取得に伴い減価償却額が減少したことによるものであります。

### (経常収益)

経常収益の総額は 21,313 百万円です。(前年度比 1,308 百万円 (6.5%) 増)

主な内訳は運営費交付金収益 5,603 百万円 (26.2%)、授業料等収益 666 百万円 (3.1%)、附属病院収益 12,906 百万円 (60.5%)、受託研究等収益 771 百万円 (3.6%)、寄附金収益 377 百万円 (1.7%) が主なものです。また、資産見返負債戻入 286 百万円 (1.3%) が計上されており、これは運営費交付金、授業料、寄附金及び国から承継された物品等の償却資産について、取得に際し、その同額を取得財源から貸借対照表の負債科目に振り替えておき、当該資産の減価償却処理を行う都度、その同額を取り崩して収益化し、損益に影響させない国立大学法人特有の会計処理によるものです。

#### 【経常収益の主な増減等】

- ① 運営費交付金収益が病院再整備事業の新病棟移転に伴う建物新営設備費、移転費等事業の実施により前年度比 316 百万円 (5.9%) 増となっております。
- ② 附属病院収益が 7:1 看護体制整備、病院再整備 (新病棟移転) に伴う差額室料・各種加算等、外来診療単価の向上等により、前年度比 667 百万円 (5.4%) 増となっております。
- ③ 補助金収益が文部科学省から大学改革推進等補助金・研究拠点形成費等補助金等の交付額の増加により前年度比 337 百万円 (973.7%) 増となっております。
- ④ 受託研究等収益が、複数年契約受入分の事業実施の減少に伴い、107 百万円 (12.2%) 減となっております。

### (臨時損益)

臨時損失は 27 百万円です。(前年度比 96 百万円 (78%) 減)

主な内訳は固定資産等の除却 (6 百万円)、損害賠償費用 (承継剰余金費用含む) (20 百万円) 等であります。

臨時利益 350 百万円です。(前年度比 323 百万円 (1179.2%) 増)

主な内訳は固定資産等の除却に係る費用に見合いの資産見返負債戻入 (2 百万円)、承継剰余金費用に見合いの承継剰余金債務戻入 (7 百万円) であります。

また、中期目標期間の最終年度の運営費交付金の精算額 (320 百万円)、承継剰余金の精算額 (19 百万円) を収益化しており、臨時利益に計上しております。

(当期総利益)

当期総利益 797 百万円です。(前年度比 130 百万円 (19.5%) 増)

中期目標期間の最終年度においては当期総利益を全額積立金に振替えることとなっております。

積立金(前年度からの累計額を含む)のうち、次期中期目標期間繰越額として承認されたもの以外の額は国庫に納付することとなっております。

(4) その他の主要表

(キャッシュ・フロー計算書)

業務活動によるキャッシュ・フローが 4,378 百万円(前年度比 1,840 百万円 72.5%増)、投資活動によるキャッシュ・フローが 5,373 百万円(前年度比 2,734 百万円 50.8%増)、財務活動によるキャッシュ・フローが 4,945 百万円(前年度比 3,888 百万円 78.6%減)であり、期末資金残高 5,836 百万円(前年度比 2,672 百万円 31.4%減)です。

なお、貸借対照表の現金及び預金(6,666 百万円)との不一致である理由はキャッシュ・フロー計算書において定期預金 829 百万円を含めていないためです。

(国立大学法人等業務実施コスト計算書)

企業会計には無い主要表として、国立大学法人の業務運営に関して国民の負担に帰せられる「現在及び将来のコスト」を表示するものであり、損益計算書を基礎とし、国民の直接の負担とはならない学生納付金や附属病院収入などの自己収入を控除し、損益外処理や機会費用について加算して算定したものであります。

平成 21 年度は病院再整備事業のための運営費交付金、教育・研究のための補助金等の交付を受け、前年度より多くの事業を実施したことに伴い、この計算書の合計が 7,030 百万円(前年度比 1,739 百万円 32.8%増)となっております。